

令和3年度 木地屋民俗資料館特別展



- 期 日 令和3年7月24日(土)～9月26日(日)
土曜・日曜・祝日のみ開館
- 開館時間 9：30～15：30
- 会場 木地屋の里 文化センター一桁の木
新潟県糸魚川市大字大所
- 入場料 無料

糸魚川市大所木地屋は江戸時代の末に飛弾から移住した木地屋が定住してできた集落で、かつては9戸の家が木地を挽き、漆を塗ってお椀を作っていました。また一方、この集落は白馬山麓の最奥に位置していたことからある時期、白馬登山越後口としての役割を担っていました。

この特別展では、忘れられようとしている木地屋のもう一つの歴史に光をあて、近代大衆登山の黎明期に白馬岳を目指した人々の姿と、越後ルートへの整備・普及に熱い思いを注いだ人々がいたことを伝えます。

令和3年7月 木地屋の里 木地屋民俗資料館
糸魚川市教育委員会文化振興課

展示テーマの概要

1 大所木地屋の歴史

大所木地屋の歴史は江戸時代の末に飛騨から三軒の木地屋が来住したことが始まりです。その後信越国境の山々に移住を繰り返し、文化文政年間には高田藩の要請によって妙高山麓の笹ヶ峰に入植します。しかし高山の生活に困窮し、再び大所に戻って定住することになります。

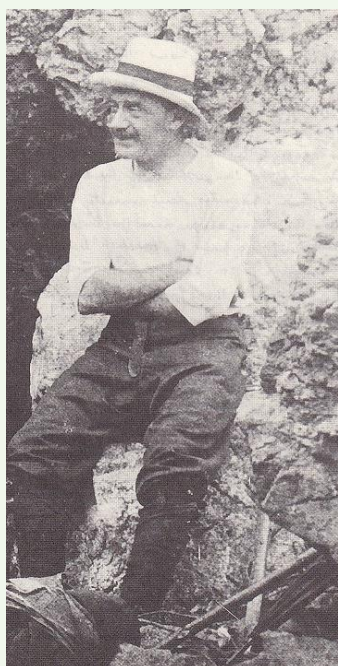
明治以降は木地製作から漆器作りにも事業を広げ、大正時代から昭和10年代にかけて漆器産地として隆盛期を迎えます。しかし太平洋戦争が始まると材料不足や需要の低迷から事業は衰退し、長い歴史に幕を下ろしました。



ろくろ作業 明治時代まではこうした伝統的な手引ろくろで木地を挽いていました。妻が縄を引いて軸を廻し、夫がろくろ鉋で削ります。



塗師の作業 大所に定住してからは、富山県の魚津から漆塗りの技術を導入して、漆器の制作を始めました。



『ウエストン 一九一三 槍ヶ岳登山の途次撮影
『日本アルプス登攀日記』 平凡社 一九九五 より

2 ウェストンと木地屋

英国人宣教師ウェストンは明治時代半ばに来日し、日本アルプスを国内外に紹介した登山家として知られています。そのウェストンが明治27年7月に糸魚川から大所・木地屋を経て蓮華温泉に一泊し白馬岳に登頂しました。その途次には往復とも木地屋に立ち寄り、帰りには民家でお茶を飲んで休んでいます。白馬登山越後ルート先の先駆けとなるウェストンの足跡を紹介し、地図でその行程を再現します。

3 蓮華登山案内と郡長加賀谷朝蔵

大正6年4月、西頸城郡役所から一冊の登山ガイドブックが刊行されました。白馬岳の登山案内としては最初期の一つとみられる『日本アルプス蓮華登山案内』です。内容は日本アルプスの概説にはじまり登山の装備、蓮華山（白馬岳）登山ルート of 解説、沿道の村々や温泉・物産の紹介、植生に至るまで多岐にわたります。

この小冊子の発刊を企画したのは若き郡長加賀谷朝蔵で、最初の任地として糸魚川町に着任したエリート内務官僚でした。後に京都市長、秋田市長を歴任した加賀谷は郡長在任中には相馬御風とも親交を結び、白馬登山越後口の整備と普及に尽力しました。展示ではその足跡と人物に光をあてます。



『蓮華登山案内』表紙
復刻版（二九八〇）『蓮華登山案内』の表紙
山誌刊行会（上越）による



大蓮華岳より白馬山頂及北アルプス諸山を望む

『蓮華登山案内』より「白馬山頂」（大蓮華山）



写真205 加賀谷朝蔵

西頸城郡長加賀谷朝蔵の肖像（京都市長を
辞任した頃） 京都市発行二〇〇九『京都市
政史』第1巻 市政の形成 P.五五一より

4 無料休憩所と登山芳名録

白馬登山がようやく一般化し始めた大正時代に、木地屋集落のヤジロ家では登山者の便をはかって無料休憩所を開設しました。そして登山者名簿（「登山芳名録」）を置き記帳を促したことから、現在ヤジロ家には大正6年から昭和22年まで5冊の名簿が残され、郡内、県内はもとより全国各地から訪れた登山者の名が記されています。近代大衆登山の黎明期に白馬岳を目指した人々の山に寄せる思いが伝わってくる貴重な記録です。本展では名簿原本を展示し、併せて閲覧用のコピーを用意します。記帳者の中には故郷の先人をはじめとして、後年日本を代表するような活躍をする著名人まで含まれており、興味は尽きません。



休憩所で休む人たち
無料休憩所で休む人たち(左の3人)

5 余 話

「登山芳名録」の第一号の冒頭、(大正6年)8月14日の日付で最初に記帳したのは郡長加賀谷朝蔵でした。その前年大正5年に大蓮華山を実地踏査し、翌6年4月に『蓮華登山案内』を発行した郡長が、再び木地屋を訪れ芳名録の冒頭に名を記したものと考えられます。このことから推測すれば、登山者名簿を備えることをヤジロ家当主小掠立治に勧めたのは郡長であったのかもしれませんが。そして昭

和22年の夏まで5冊の名簿が書き継がれ、最後は7月2日で終わっています。翌23年の夏に小掠立治は世を去り、やがて頸城鉄道の路線バスが運行されるようになって登山休憩地としての木地屋の役目は終わりました。



「国立公園日本アルプス越後口木地屋」の標柱と「無料休憩所」の看板
バス停前に立てられていた案内看板。上方に庭で休む登山者の姿が見える(昭和一〇年ころ)。白い標柱の下の方に「越後口木地屋」の文字。白馬岳の絵が描かれた左の看板は保存されており、今回の展示資料となっている。